

### Pick up イベント

### 鑑賞WS「ミルトーク」

4/25 (土) 14:00~16:30

ミュージアム・アクセス・ビュー×カフェフィロ 特別企画

場所：スペースALS-D(西陣)

参加人数：27人(うち、見えない人/見えにくい人5人)

今回の「ミルトーク」は特別編としてミュージアム・アクセス・ビューとの共同企画として開催いたしました。はじめての試みで、参加者は集まるかな、と心配していましたが、大雨のなか27人もの方に参加していただきました。

「そこに絵があるの？」という見えない方の一言からはじまったミルトーク。最初の1時間は、見えているものを言葉にすることに集中。「道」にみえる、「川」だと思った、いや、「宇宙から見た地球だ」などなど。

参加者は改めて、ひとつの作品から、こんなにもいろんな印象をうけるのだ、ということを実感、おもしろく感じられていたようでした。

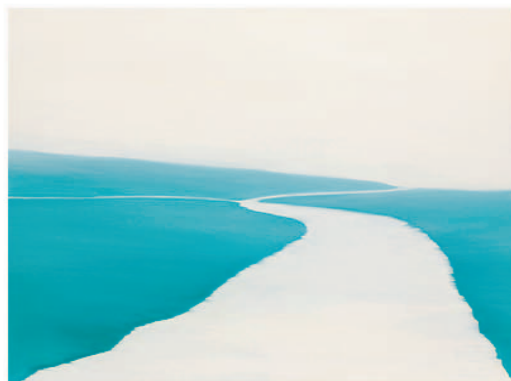
また、「人の見方はそれぞれだから」「いろんな見方があってもいい、それがおもしろいんじゃないか」というような、多様性を尊重、あるいは個々の見方を大切にす趣旨の発言が多くでました。ビューの鑑賞ツアーに参加されている方は、「絵に決まった見方はない」ということを、すでに実感されているのでしょう。全体に発言は途ざれることなく、2時間はあっというまに過ぎてしまいました。

また今後も機会をみつけて、ミルトークを開催していきたいと思います。

(報告：井尻貴子)



スペース ALS D: 京都の町家を利用し、2008年に誕生した、ALS患者甲谷匡賛さんの生活の場に併設されたオープンスペース。



中井幸子「One-Where are you? No.4」  
oil on canvas 91.0×116.7(cm) 2006

#### メンバーコラム

#### 神田古書の町界隈で哲学カフェを開く

寺田俊郎

東京で哲学カフェを開いた当初から、古書の町、神田神保町界隈に会場を見つけたと思っていた。この辺りには感じのいい喫茶の名店がたくさんある。でも、参加者の人数が読めないことが足枷となつてなかなか踏み切れなかった。誰でも出入り自由であることがカフェの力であるゆえんであり、この界隈のどの名店も出入り自由であるには違いないが、土曜日の午後のティータイムに十人で予約した席に三人しかいなかったり、急いで五人分の席をつくってもらったりというのは、やはり心苦しい。

毎回かなり気をもみながら、そして時にはお店から文句も言われながら、なんとか毎月——ふつうのカフェと学校と教育を考えるカフェとを交互に——開いている。「カフェテラス古瀬戸」で数回続けたが、前回「K&B Blue」に急遽変更しなければならなくなった。「古瀬戸」がサイエンスカフェ一色に染まっていた。出入り自由な空間を誰にも気兼ねせず実現するためには資金力がある、ということか：うーん。でも、「K&B Blue」もすてきなカフェでよかった。

#### 【寺田俊郎】

明治学院大学教員。カフェフィロ会員。大阪大学臨床哲学研究室在学中に同僚と哲学カフェを試み始め、二〇〇二年よりキャンパスの内外で哲学カフェを開く。

# 中之島哲学コレージュ 書評カフェ『街場の教育論』

日時：五月二十九日（金）  
場所：アートエリアB1  
評者・進行：中川雅道

京阪なにわ橋駅の地下に設けられた「アートエリアB1」で開催している中之島哲学コレージュ。『街場の教育論』を取り上げた五月二十九日の書評カフェには、三十人以上の参加者が集まり、活発に意見を交わしました。

教育について語る場、学校や学会などの政治的状況に巻き込まれず、教え、学ぶことの真理そのものについて考えられる場、つであるのだろうか。そんな疑問に自分自身で答えるために、書評カフェを企画しました。

『街場の教育論』では、「師の師」という師を超えた知的境界を「師と弟子」が学ぶ場を持ち込むことが教育には必要だと主張されています。つまり、師自身が学びつつあり、知の運動に巻き込まれることが教育の本質なのではないか、ということなのです。

こうした内田氏の主張に対して、会場からは次のような意見が出ました。

「師は尊敬される存在でなければならないのではないか。」

「好きなことを共有し、その先を見せてくれる先生が師である。」

「教員と師は別で、教員という立場を捨てることでできる人が師である。」

「どこにでも学びの扉はひらいていて、その扉の向こうにもたくさんさんの扉がある。」

このように議論は、「師とはどのような存在か？」という問いかけの回りをぐるぐるまわっていました。しかし、意見が重なりながら積みあがっていったような気がします。感想はひとこと、楽しかったです。

教育については論じられるべき余白がまだまだあるのではないか。この疑問を忘れないように、今後も教育について考えていくつもりです。  
（報告：中川雅道）

## 【中之島哲学コレージュ 四〜五月】

四月一五日 哲学カフェ「あいさつ」

進行 井尻貴子

四月二四日 書評カフェ「よろん？せろん？」

評者 三浦隆宏

五月一三日 哲学カフェ「市民とは誰か？」

進行 高橋綾

五月二九日 書評カフェ『街場の教育論』

評者 中川雅道



## 2009年4〜5月 活動一覧

- 4月12日 花見哲学カフェ「なぜ花見をするのか？」 滝川公園 高橋綾
- 4月15日 哲学カフェ「あいさつ」アートエリアB1 井尻貴子
- 4月18日 哲学カフェ「学校は必要か？」 Klein Blue 寺田俊郎
- 4月18日 哲学カフェ「自殺」 阪大ミュージアムカフェ「坂」 谷山弘太
- 4月24日 書評カフェ「よろん？せろん？」 アートエリアB1 三浦隆宏
- 4月25日 ミルトーク「One-Where are you？」 スペース ALS-D 井尻貴子
- 4月29日 シネマ哲学カフェ「蟹工船 1953」 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 5月13日 哲学カフェ「市民とは誰か？」 アートエリアB1 高橋綾
- 5月17日 哲学カフェ「孤独はよくないことか？」 コーヒーショップ JUN 藤本啓子
- 5月23日 哲学カフェ「イラクの人びとの現実よりわたしの現実が大事？」 Klein Blue 寺田俊郎
- 5月24日 シネマ哲学カフェ『空とコムローイ〜タイ、コンティップ村の子どもたち〜』 シネ・ヌーヴォー 本間直樹
- 5月27日 〈テツドク！〉第2回 市川浩『〈身〉の構造』 さする庵 玉地雅浩
- 5月29日 書評カフェ『街場の教育論』 アートエリアB1 中川雅道
- 5月30日 書評カフェ ベルグソン『笑い』 カフェ P/S 藤本啓子

### CAFÉ PHILO (カフェフィロ)

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足、哲学カフェ、哲学対話セミナー（こども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒560-8232 大阪府豊中市待兼山町15 大阪大学文学研究科 本間準教授室内

e-mail: info@cafephil.jp http://www.cafephil.jp

哲学喫茶瓦版 2009年6月1日発行

発行人：本間直樹 編集・デザイン：井尻貴子・松川絵里

